

タイトル	非認知能力の育成を意識した授業改善 やってみる・ねばる・つながる
学校名	四條畷市立四條畷中学校

取り組みの概要

非認知能力を意識した取り組みも今年で3年目になります。今年度のサブテーマとしては、

② 感情に働きかける仕掛けのある授業

②ふりかえり活動を通して学びの自己調整力をつける ことをめざし取り組みました。

中学校区での取り組みに広がっていることもあり、昨年度に引き続き、9月に元岡山大学の准教授である中山芳一さんを講師として合同研修を行いました。そして、今年度は生徒にも意識して授業に取り組んでほしいと生徒向けにも講演をお願いしました。

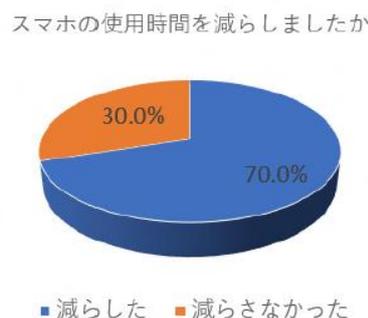
「みんなでやるるを意識していますか？」の肯定的回答			
	6月	11月	2月
1年	71.8%	59.5%	68.2%
2年	73.1%	73.0%	74.3%
3年	77.8%	84.7%	83.2%

「3つのるるの力が伸びていますか？」の肯定的回答			
	6月	11月	2月
1年	77.2%	69.7%	77.1%
2年	80.2%	75.2%	82.6%
3年	75.8%	84.8%	81.3%

学年による発達段階の違いもあり、意識の度合いに差があることがわかり、学年ごとの行動指標が必要であることも明らかになりました。

年々ひろがる学力格差と、コロナ対策の影響もあり、つながり力の格差も広がってきています。授業がわからない生徒、「教えて」「教えよっか」「一緒に頑張ろう」と声をかけられない生徒が増えてきています。そのことも要因の一つとして学習意欲の低下、学習習慣のなさが顕著に表れています。「やれそうだ」「面白い」「わかった」という感情に訴えるギミックを用意していくことが必要です。それに加え授業への参加の手立て（机間指導、こまめな声かけ、ミニ先生など）を教員が多く持つことが大事なことも11月のTM研究授業でも明らかになりました。若年層の教師にはいい刺激になり、ギミックのベースとなる教員の基礎知識として広げていきます。

また振り返り活動によって生徒の学習に向かう意識や、簡単にあきらめないという気持ちを高めていきます。そして、学習習慣の定着を阻害しているスマートフォンへの依存を「ねばる」の力を意識させることで自己管理できるよう、家庭とも連携して取り組んでいきます。



3年生のあるクラスのスマホ断キャンペーン結果